

可燃ごみ（燃やせるごみ）組成分析調査について

1. 組成分析調査の概要

ごみ減量・リサイクルと適正処理に向けた施策の基礎資料とするため、ごみの組成分析調査を実施しました。今年度は可燃ごみ（燃やせるごみ）を対象としました。

(1) 調査実施日

令和7年1月31日

(2) 調査対象

市内より可燃ごみ（燃やせるごみ）約100kgを収集しました。

(3) 分析場所

調布市クリーンセンター

(4) 組成分析

採取した検体を家庭系ごみと事業系ごみに分けた後、品目ごとに分類し、重量を計測しました。

なお、家庭系生ごみの分類については、環境省「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開袋調査手順書（令和元年5月版）」に準拠した調査を実施しました。

2. 可燃ごみ（家庭系・事業系）組成分析調査の結果

全体の調査結果は下表のとおりです。

表1 令和6年度可燃ごみ組成分析調査結果

大分類	中分類	小分類	可燃ごみ (燃やせるごみ)		
			家庭系	事業系	
可燃物	食品ロス	食べ残し	7.0%	5.1%	10.7%
		未利用食品(直接廃棄)	8.6%	13.0%	0.1%
	調理くず		28.0%	25.0%	34.0%
	その他 可燃物	紙おむつ類		—	—
		リサイクルできない紙類	23.4%	20.4%	29.3%
		布類(リサイクル不可能品)	3.8%	5.2%	1.1%
		草木類	2.4%	1.7%	3.6%
		ゴム・皮革類	0.2%	0.0%	0.6%
	その他可燃物	2.0%	2.3%	1.5%	
	可燃物小計			75.4%	72.6%
不燃物	容器包装非対象プラスチック		3.5%	2.6%	5.5%
	金属類		0.1%	0.2%	0.1%
	小型家電類		—	—	—
	その他 不燃物	紙パック(アルミ付)	0.4%	0.6%	0.1%
		その他不燃物	0.1%	0.1%	—
不燃物小計			4.2%	3.4%	5.7%
資源物	古紙	包装紙・紙袋・紙箱	3.7%	4.5%	2.3%
		その他雑がみ	2.0%	2.1%	1.9%
		その他古紙	2.3%	2.8%	1.3%
	布類		1.9%	2.8%	—
	びん		—	—	—
	カン		0.1%	0.1%	—
	ペットボトル		0.3%	0.3%	0.1%
資源物小計			10.3%	12.7%	5.5%
容器包装 プラス チック	フィルム・袋類		4.6%	4.4%	5.2%
	レジ袋		0.4%	0.6%	0.1%
	食品トレイ		0.3%	0.5%	—
	パック・カップ		2.1%	2.5%	1.2%
	その他ボトル		1.4%	1.8%	0.7%
	発泡緩衝材類		0.0%	0.0%	—
	その他容器包装プラスチック		0.6%	0.8%	0.1%
	容器包装プラスチック小計			9.4%	10.5%
有害物			0.0%	0.0%	—
収集不適物(土・砂)			—	—	—
指定ごみ袋			0.7%	0.8%	0.6%
合計			100%	100%	100%
(参考: サンプル重量)			102.27kg	68.00kg	34.27kg

(注) 構成比(%)の合算値は四捨五入の関係上、100%にならないことがあります。

表中の「0.0」は表示されている桁数より小さい値がある場合を表しています。

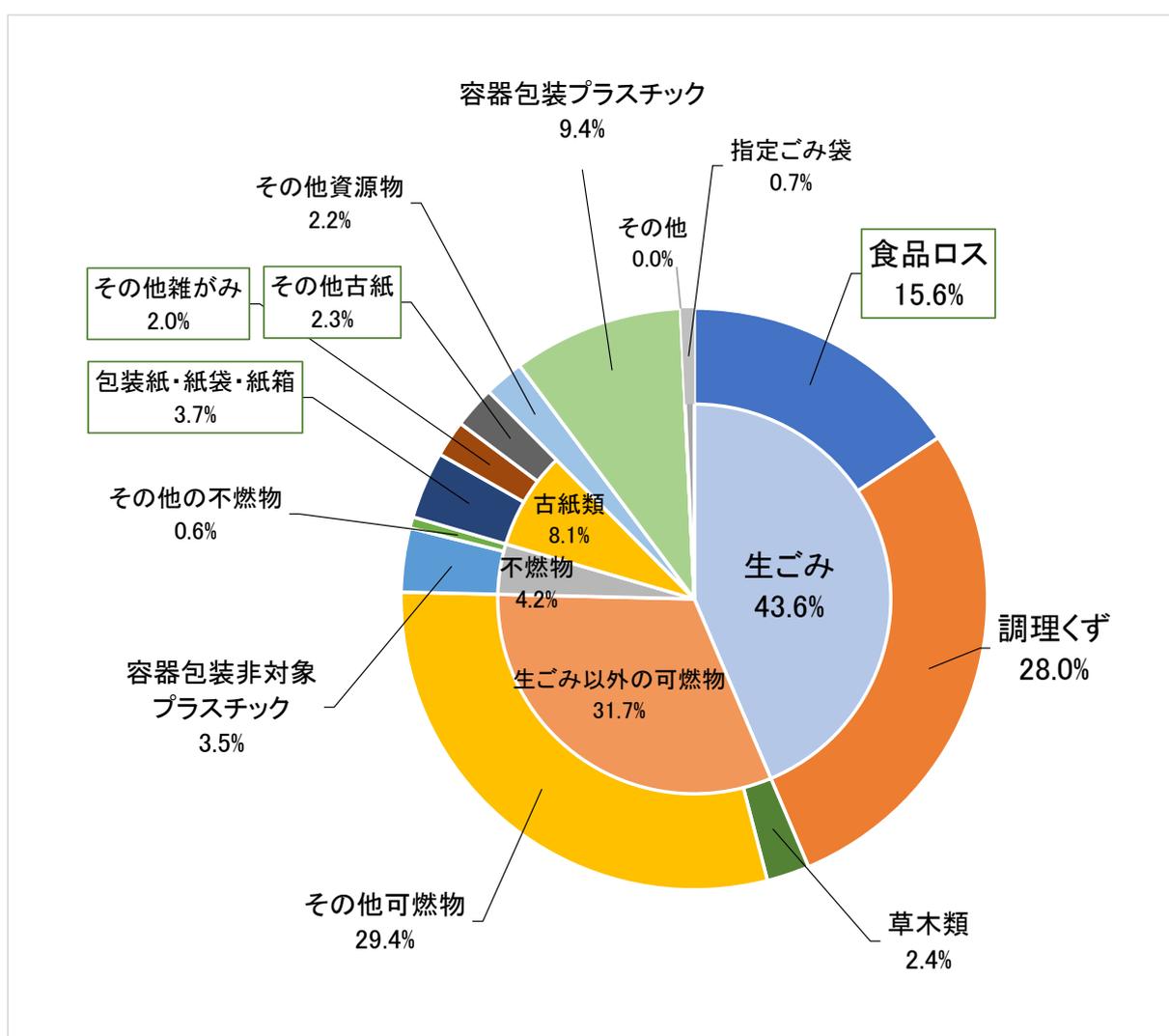
表中の「—」は全く排出されていなかったことを表しています。

正しい分類

【可燃ごみの内訳について】

- 燃やせるごみとして正しく分別されている割合は 76.1%（指定ごみ袋を含む）でした。
- 品目別には「生ごみ」が 43.6%と最も多く、その中で食べ残しや未利用食品といった「食品ロス」が 15.6%となっています。
- 資源化可能な古紙類の割合は 8.1%です。その内、雑がみ類は 5.7%でした（「包装紙・紙袋・紙箱」3.7%と「その他雑がみ」2.0%の合計）。

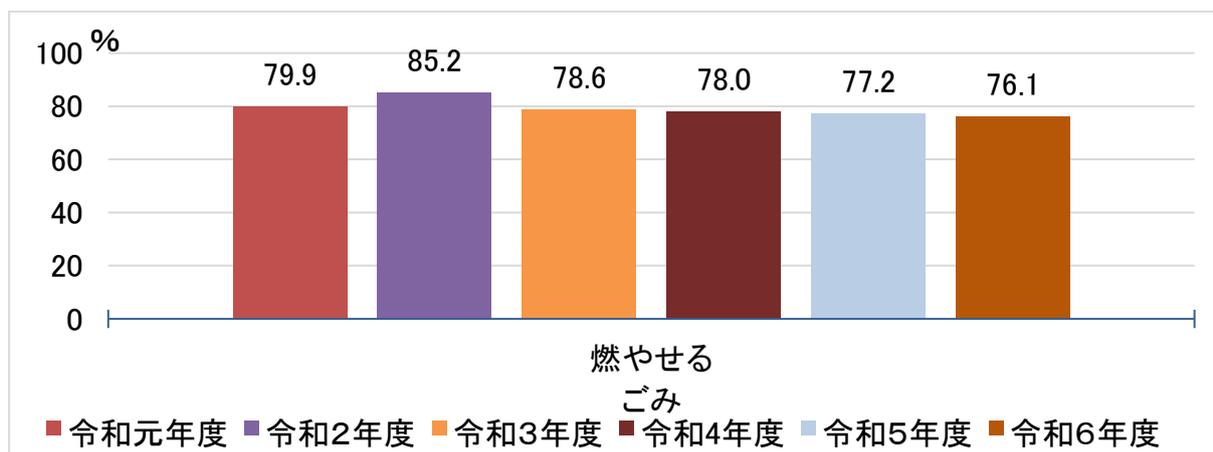
図 1 家庭系燃やせるごみの組成



3. 過去の調査との比較

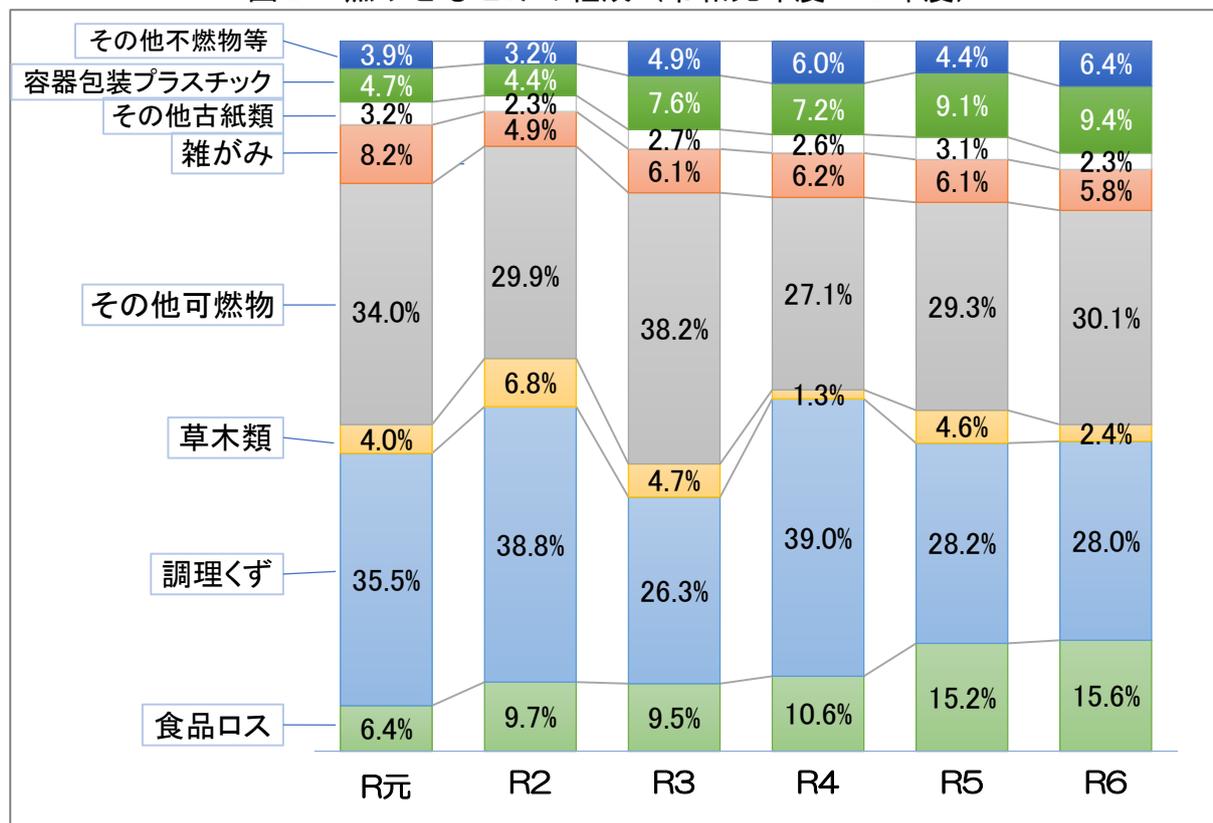
- 燃やせるごみが正しく分別されている割合は、前年度と比べ 1.1 ポイント低下し、ここ数年下落傾向を見せています。なお、燃やせるごみ・容器包装プラスチックの組成は今年度調査していません。

図2 正しく分別されている割合（令和元年度～6年度）



- 今年度の燃やせるごみの組成は、「食品ロス」比率の増加傾向が続き 15.6% となっています。また、「容器包装プラスチック」比率も増加傾向にあり、今年度は 9.4% となっています。

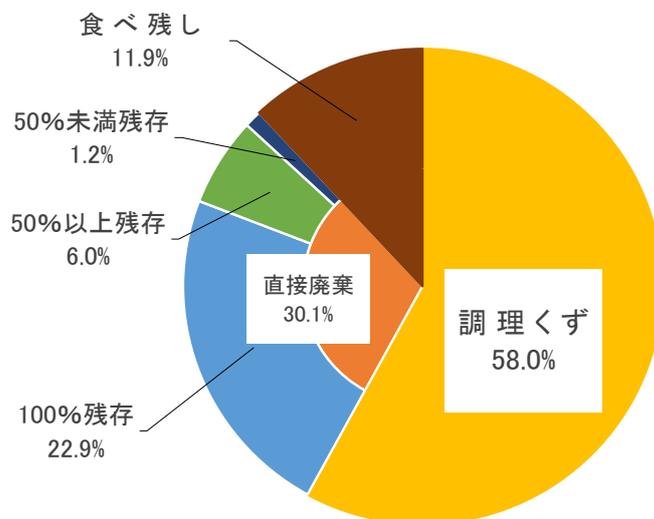
図3 燃やせるごみの組成（令和元年度～6年度）



4. 家庭系生ごみの内訳

- 表1の家庭系の生ごみについては、内訳を詳細に調べています。図6に見るように、生ごみの内訳は、調理くず 58.0%、「直接廃棄（未利用食品）」30.1%、「食べ残し」11.9%となっています。

図4 家庭系燃やせるごみ中の生ごみの内訳



- さらに未利用食品については、容器包装の印刷やラベルなどから「消費期限」「賞味期限」別の内訳についても調査しました。
- 「賞味期限」の表示があるものは62.3%あり、賞味期限から1ヶ月以上経っているものが45.7%、期限前に廃棄されたものが13.8%ありました。消費期限切れのものは7.4%でした。

図5 「未利用食品」の内訳

